



ヘンゼルとグレーテル

昔々、ヘンゼルというお兄さんと、グレーテルという妹のきょうだいがいまいた。

ある日、二人は森で道に迷ってしまいました。ヘンゼルとグレーテルは、一晩中、帰り道を探して森の中を歩きましたが、見つかりません。

とうとう、三日目の朝に、二人は一軒の家を見つけました。なんと、それはお菓子でできた家でした！

おなかがすいていた二人が、夢中でお菓子の家を食べていると……。中からおばあさんが出てきました。

驚く二人に向かって、
「さあ、中にお入り。もっと、おいしいごちそうがあるよ。」

ヘンゼルとグレーテルは、おなかいっぱいごちそうになり、暖かいベッドで眠ることができました。

ところが、このおばあさんは子どもをおびき寄せて食べる、恐ろしい魔女だったのです！

次の日、魔女はヘンゼルをつかまえると、おりに閉じ込めてしまいました。そしてグレーテルをつかまえて、言いました。

「お前の兄さんをもっと丸々と太らせて食べるから、お前はおいしいものを作って食べさせるのじゃ。」

目の悪い魔女は、毎日ヘンゼルの指を触って太り具合を確かめましたが、

一向に太る様子がありません。ヘンゼルは、いつも食事の残りの細い肉の骨を出していたからです。

一ヶ月も経つと、ついに魔女は我慢できなくなり、ヘンゼルを食べることにしました。魔女は、パンを焼く窯の準備を始めました。

そして、グレーテルに言いました。
「窯の火がよく燃えているか、中を見ておくれ。」

グレーテルは、
「どうやって見ればよいか、分からないわ。教えてちょうだい。」

魔女は、やれやれと、窯の扉を開けて中をのぞき込みました。
「今だ！」

グレーテルは、魔女を窯に押し込み、扉をしっかりと閉めてしまいました。
「ぎゃー！」

魔女は叫び、そのまま焼け死んでしまいました。
グレーテルは、おりからヘンゼルを助け出し、二人は喜び合いました。

そして、森を抜け出し、やっと家に帰ることができました。

帰ってきた二人を見て、お父さんは大喜び。
三人はずっと幸せに暮らしました。

(おしまい)